



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和元年11月29日
☎55-2260 第8号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



夢を叶えるために才能を磨きましょう。

秋も本格的にスタートしたかと思う間もなく、秋はすぐ終わり、小雪の頃となりました。本格的な冬はまだ先のことですが、自然界は着々と寒い冬の準備を始めています。

さて、先日朝会で子供たちに話したことを紹介いたします。

10月26日に新月中学校の文化祭に行ってきました。その中で中学3年生の立志式を見てきました。立志式は、将来このような人になりたい。こんな夢を持っている。だからこのようなことをしていきたい。という決意を一人一人が発表する式です。

そこで感じたことを今日は話したいと思います。まずは話を聞いてください。

木こりの話 二人の同じ力を持っている木こりが1時間でどれだけ多くの木を伐(き)れるか競争をしました。競争をしていると一方の木こりは、すぐに全力で伐る作業に取りかかったのに、もう一方はなかなか伐りはじめません。結局20分ほど経ってからようやく伐り始めました。

1時間後、より多くの木を伐採したのはどちらでしょうか。

結果は、すぐに伐り始めた木こりが4本、20分遅れて取りかかった木こりは、6本の木を伐ったそうです。果たして、彼は最初の20分間に何をしていたのでしょうか。

実は彼は、のこぎりの切れ味を鋭くするために目立てをしたのでした。

いくら努力しても結果が出なくて焦るときがあります。俗に言うスランプです。そのときは才能を磨く時間を確保することが大切だそうです。

また、いくら練習しても結果が伴わないことがあります。練習の仕方を工夫してみる必要があります。勉強も同じです。知識をためるだけでは、これからの時代では通用なくなります。知識を知恵に変える力が必要です。

先生の仕事は、皆さんに知識を知恵に変える力を身に付けさせることです。つまり皆さんの才能に磨きをかけることに先生達は最もエネルギーを注いでいます。

イチロー選手の話

イチロー選手の写真

何をしている人ですか だれか名前が分かる人は 今どこに居ますか

そうです今年の3月に引退したイチロー選手です。

今からイチロー選手が小学校6年生に書いた作文を読みます。

「夢」

ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校と全国大会に出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるには、練習が必要です。ぼくはその練習には、じしんがあります。ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳から7歳までは半年位やっていましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日ははげしい練習をやっています。だから、一週間中で友達と遊べる時間は、5時間～6時間の間です。そんなに、練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は、中日ドラゴンズか西武ライオンズが夢です。ドラフト入団で、けいやく金は1億円以上が目標です。ぼくがじしんがあるのは、投手と打げきです。去年の夏、ぼくたちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会 NO.1投手とかくしんできるほどです。打げきでは、県大会4試合のうちに、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打りつは、5割8分3りんでした。このように、自分でもなっとくのいくせいせきでした。そして、ぼくたちは、1年間まげ知らずで野球ができました。だから、このちょうしでこれからもがんばります。そして、僕が一流の選手になって試合に出れるようになったら、お世話になった人に、招待券をくぼって、おうえんしてもらおうのも夢の一つです。とにかく、一番大きな夢は、プロ野球の選手になることです。

何がすごいかというと、「プロ野球選手になる」という明確な目標を持ち、そのために何が必要かを理解し、それを確実に実行し、実現していることです。

夢が叶うかどうかは、他人が決めるものではありません。自分が決めることです。イチロー選手は「甲子園に行けないよ」「プロの野球選手は無理だよ」と周りの人から「できないのではないか」と言い続けられました。しかし、とうとう夢を叶えました。素晴らしいですね。皆さんも内に秘めている可能性があります。その可能性を発揮し、夢を叶えるために自分の才能を磨きましょう。